
敷物製造業

敷物の生産は、平成 16 年頃から前年比で増加に転じ、景況の底打ち感が拡がっている。

このような状況を受け、環境対応などの設備投資が行われ、雇用面でも大手で製造部門の新規採用が行われるようになってきている。

ただ、材料価格が上昇する一方で、コスト上昇分をすべて販売価格に転嫁するのは困難で、収益は厳しい状況にある。

このため、大手による M & A 等、業界再編が進行しつつあるが、製品毎の棲み分けは進んでおらず、価格競争は継続しており、収益を圧迫している。

今後は、得意分野への特化が進行するとともに、自社の特徴を打ち出せない企業の廃業も出てくると考えられる。

業界の概要

敷物（じゅうたん・その他繊維製床敷物）は、刺す、織る等の製造方法によって分類される。

刺す方法で生産されるカーペットとしては、タフテッドカーペットが挙げられる。タフテッドカーペットは、生産量が最も多く、タフティングマシンを用いて基布にパイル糸を刺繍し、裏を接着剤で固定して、別の基布を貼りつけて製造するもので、大量生産が適していることから製造コストを低くすることが可能である。また、タフテッドカーペット等を方形に裁断して製造したタイルカーペットは、オフィス等の床材として用いられる。タフテッドカーペットやタイルカーペットは、主に業務用に利用され、需要先はゼネコン

や工事業者である。

織カーペットは、手織りと機械織りに分類できる。前者はだん通とも呼ばれ、中国だん通やペルシャ、トルコじゅうたんなどが有名である。後者の代表的な生産は、ウィルトンカーペットであり、弾力性があり、通気性も良く、変化に富んだ柄を出せるという特徴があり、高級品として用いられる。織カーペットは、一般消費者が主な需要先である。

大阪の特徴

大阪における敷物生産は、江戸時代末期に始まり、明治中期には堺だん通として全国的に有名になった。戦後は、チューブマットやウィルトンカーペット、タフテッドカーペットに主力が移り、輸出も盛んとなり、全国一の産地として隆盛を極めた。

現在も出荷額 447 億円、事業所数 78 で、全国に占めるシェアはそれぞれ 24.5%、38.4% となっている（経済産業省『平成 17 年工業統計表（品目編）』（従業者 4 人以上の事業所））。

府内での立地は、堺市、和泉市、岸和田市に集中している。企業規模としては、10 人程度が多い。

販売については、大手は関連企業である販社経由で販売するケースが多く、中小は、卸売業への販売やメーカーや卸売業者の OEM 生産が多い。

生産は回復傾向

じゅうたん・だん通、タフテッドカーペット、その他の繊維製床敷物・同類似品の平成 17 年の製造品出荷額の前年比をみると 1.6% 増となっており、16 年（前年比 4.2% 増）から 2 年連続で増加、回復基調にある。

回復の背景として、住宅着工や自動車生産台数の増加が挙げられる。

19年に入ってから、住宅着工戸数や自動車生産台数が前年同月比でマイナスとなる月が多くなっていることもあり、生産回復に一服感が出ている。ただ、このまま生産が減少していくという見方にまでは至っていない。

設備投資、雇用面にもやや明るさ

生産の回復を受け、染色加工排水の水質改善装置や、繊維を固定するためのラテックスを使わないことによって、リサイクル処理を簡素化できる100%繊維の製品を生産するための装置等、環境対策やリサイクル促進等を目的とした設備投資が、行われるようになってきている。

また、雇用面では団塊世代の退職者増加に対応するために、大手では、製造部門における新規採用が行われている。一方、中小では、退職者の再雇用等が多い。

輸入量は増加

現在、円安傾向が続いているが、国内の敷物需要の拡大に応じて、敷物の輸入量は17年（前年比16.2%増）、18年（同7.5%増）と増加している。その中でも輸入量増加が大きいのは中国である（財務省『貿易統計』）。

特に中国からの輸入品は、一般家庭用バスマット等の安価な製品が、18年で前年比24.3%増と大きく増加している。輸入量の増加は、競合する一部の国内企業の経営を圧迫している。

収益環境は厳しい

国内需要は増加傾向にあると考えられる。ただ、収益面をみると、近年の石油価格の上昇に起因する材料の塩化ビニル樹脂等の上昇に加え、染色業者の減少等も進行しており、材料価格等のコスト低下は期待しづ

らい。その一方で、価格競争の激化や、ゼネコン等の需要サイドの価格決定力が強いことから、コスト上昇分をすべて販売価格に転嫁するのが困難で、収益は厳しい状況である。

今後の見通し

短期的には、生産回復に一服感が出ているものの、このまま生産が減少していくという見方には至っておらず、当面は横ばい傾向が続くと考えられる。

大手等を中心にM & Aが行われる等、業界再編が進行しつつある。また、現状は得意分野に特化していく企業は少なく、製品毎の棲み分けは進んでいないが、今後は、得意分野への特化が進行すると考えられる。

(木村 和彦)

敷物類の製造品出荷額等の推移

(単位：百万円、%)

	じゅうたん・だん通	タフテッドカーペット	その他の繊維製床敷物・同類似品	合計	前年比
平成11年	9,045	106,537	91,088	206,670	-
12年	9,022	100,764	88,743	198,529	96.1
13年	7,025	93,208	91,767	192,000	96.7
14年	7,059	84,230	90,937	182,226	94.9
15年	6,559	77,501	88,630	172,690	94.8
16年	6,030	84,673	89,186	179,889	104.2
17年	5,614	87,866	89,204	182,684	101.6

資料：経済産業省『工業統計表（品目編）』